

LAYANG LAYANG

5-6月の出来事

マレーシアの発展に寄り添って：対マレーシアODA60周年

マレーシアへの政府開発援助（ODA）が1956年に始まって以来、日本はマレーシアの社会経済の発展に寄り添ってきました。5月18日には、60年の経験を振り返り、将来の協力のあり方を探るセミナーを開催しました。当日はマレーシア政府機関などから150名を超える参加がありました。より多層的になった日本とマレーシアの関係にあわせて、ODAの在り方も変わっていく必要性を感じるセミナーでした。



150名を超える参加者が集まった会場
パネルディスカッションの様子

マレーシアの若手技術者が日本の最新の新幹線技術を視察



新幹線に乗車
日本の新幹線技術を体感した参加者たち

6月18日～24日、マレーシアの高速鉄道開発に関わる政府関係機関の技術者7名が日本を訪れ、日本のトンネル・橋の建設技術、車両・鉄道の維持管理技術、デポや駅の開発・運営ノウハウなどを視察しました。断食や梅雨の暑さにもかかわらず、熱心に現場を見て、体験して、日本の技術やノウハウへの理解を深めていました。今回の経験が今後のマレーシアでの高速鉄道運営に活かされることが期待されます。

JACTIM主催の北部コリドー投資比較調査での発見

マレーシア日本人商工会議所（JACTIM）による北部コリドー投資比較調査が5月17日～19日に実施され、JICAが実施した開発調査「ハイテク工業団地建設計画」（1993年～1995年）に基づき建設されたケダ州クリムハイテクパークも訪問しました。同ハイテクパークは、設立以来24,000人の雇用を創出、日系企業を含む多国籍企業から約100億ドルの投資を誘致しています。区域内には技術系大学も設置され、居住施設や都市機能も有する職住の均衡がとれた、先進的なハイテクパークでした。先方からは、感謝の言葉もあり、JICA事業がマレーシアの経済に多少なりとも貢献した証しを確認できました。



クリムハイテクパークで参加者と

コミュニティの生計向上活動の継続を心から願いつつ…



活動終了式の様子と村で生産された桑の実茶 産・販売など）の報告や日本での研修成果の発表が行われ、プロジェクト終了後も成果を維持していくという関係者の意向が確認されました。前身のプロジェクトから14年に亘り支援してきたサバ州の生物多様性保全への協力も、一旦の終止符を打ちました。

「サバ州を拠点とする生物多様性・生態系保全のための持続可能な開発プロジェクト」 期間：2013/7 - 2017/6 マ側機関：サバ大学、サバ州政府

JMTIでジョブフェア 就職・進学を希望する学生を後押し

日本マレーシア技術学院（JMTI）では、毎年卒業時期の6月と12月に合わせ、就職やインターンシップのマッチングの機会を提供するジョブフェアを開催しています。6月8日に実施されたジョブフェアには、日系企業8社を含む25社と政府系3機関、JMTIの学生約150名を含む約250名の学生が参加しました。前日の7日には学生向けのキャリアパス・進学セミナーも



多くの企業と学生が集まり真剣なやり取りを展開

開催されました。第一線で働くJMTI OBの就職経験談や進学先の一つとなりうるマレーシア日本国際工科院（MJIT）の学校説明会などが組み込まれ、学生たちが熱心に耳を傾けていました。

注）JICAは、先端分野の技術を習得した高度技術者を養成するJMTIを、「日本・マレーシア技術学院プロジェクト」（期間：1998/1-2004/1）を通じて支援し、現在も、シニアボランティア（コンピューター工学）を派遣しています。また、「マレーシア日本国際工科院整備 事業附帯プロジェクト」（期間：2013/7-2018/7）を通じて、MJITに対する支援も行っています。

その他のニュース「南南協力」他

● 2017年度マレーシア南南協力計画案件リスト（2017年5月22日）

https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/ku57pq000021aiva-att/list_20170522.pdf

● エジプト調査団が第三国研修「生産性向上リーン生産方式」の計画を策定（2017年6月2日）

<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/170602.html>

● 対マレーシアODA 60周年セミナー -ODAを通じて形成された日本とマレーシアの強い絆を確認、協力関係の将来を模索-（2017年7月4日）

https://www.jica.go.jp/topics/2016/20160408_01.html

マレーシアの断食明けのお祝い：ハリラヤプアサ

60%以上の国民がイスラム教徒のマレーシア。イスラム教の人々が1番盛大に祝うのが「ハリラヤプアサ」です。約1カ月に及ぶ断食が終わり、新月を迎えてお祝いします。人々はこのハリラヤを心待ちにし、断食月を耐え過ごします。

ハリラヤは夜からはじまります。イスラム社会の1日の始まりが日没からだからです。モスクからはタクビールと呼ばれる合唱が聞こえ、あちこちで花火の打ち上げや爆竹の音が鳴り響きます。子ども達はこの花火と爆竹が大好きで、マッチやライターの火の扱いに慣れているのには驚きです。田舎の実家へ帰り、大人も子どもも夜遅くまで飲み食べしながら談笑します。夜が明けると、この日のために用意した新しい服“バジュラヤ”を着て挨拶まわりに出かけます。



各地から親族が実家に帰って集まり、賑やかに祝う



親族同士は男女でも挨拶を交わす

バジュラヤは家族でお揃いの色です。日本人の感覚では家族でお揃いの服を着るのは恥ずかしいですが、反抗期の年頃の青年もお揃いの服を着ている姿を見ると、文化の根深さが窺い知れます。はじめに父と母に挨拶をし、お墓参りをして、親戚や友人の家を訪問し、ひとりひとりと握手や抱擁を交わします。この時に子どもはお年玉をもらえます。挨拶の後はMakan（マレー語で「食べる」）です。もち米を葉っぱで三角に巻いて蒸したクトゥパットや竹に入れて蒸したレマン、クイラヤと呼ばれるお菓子などの伝統的な食べ物がどこの家へ行っても必ずあり、おもてなしとして出してくれます。一緒に親戚訪問をしていると、人々との繋がりを感じ、温もりを感じます。マレーシアには多民族国家ならではの多くの宗教行事があり、一緒に過ごしてその文化や伝統を体験することは異文化を知り、理解することにつながり、私たちの視野や世界を広げてくれます。

（青年海外協力隊（障害児・者支援） 植山明日香）

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp/>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → ms_oso_rep@jica.go.jp

JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia

Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : ms_oso_rep@jica.go.jp